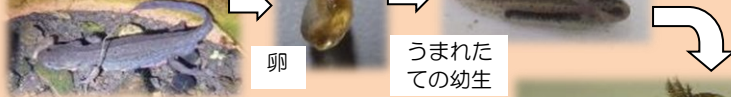


7 アカハライモリ イモリ科

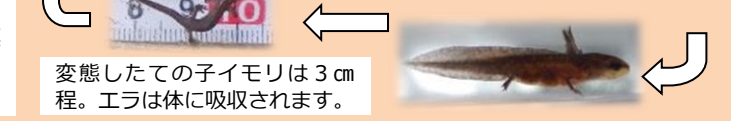


2006年、絶滅危惧種の保護を目的として秦野市内の他の生息地からアカハライモリ数匹を採取し、とんぼのせせらぎに移入しました。その後緑地の広い範囲で確認されるようになり、産卵も確認されるようになりました。普段は湿った落ち葉のある林などにすんでいます。3月から7月頃池に来て雄と雌が会い、雌は水草を折りたたんでその中に卵を一つずつ産みます。幼生は変態するまでずっとえらが外に出ています。カエルは後ろ足が先に出来ますがイモリは前足が先に出来ます。

3~7月頃



8~9月頃



毒(テトロドトキシンというフグと同じ毒)を持っているよと知らせるための赤い模様。触るだけでは死にませんが手を洗いましょう。

カエルマップ

とんぼのせせらぎ
アカハライモリがたくさんすんでいます。ヤマアカガエルも産卵しますが、イモリに食べられてしまいます。

葛葉川
カジカガエルが石の上でよく鳴いています。初夏に川の中でおたまじゃくしが見られます。



でんじそう池
ヤマアカガエルやアズマヒキガエルの産卵場所。アカハライモリもいて、水草に産卵します。ツチガエルは一年中すんでいて産卵しますが近年減っています。

小鳥の水飲み場
ヤマアカガエルの産卵場所。おたまじゃくしをねらって、ヒバカリというヘビもやっつけます。

参考文献：山溪ハンディ図鑑9「日本のカエル」山と溪谷社、「カエル・サンショウウオ・イモリのオタマジャクシハンドブック」文一総合出版

編集・発行：秦野市くずの家 〒257-0031 秦野市曾屋 1137 TEL:0463-84-7874
発行日：2023年3月19日
*このリーフレットは公益財団法人 かながわトラストみどり財団の助成金を活用して作成されました。

くずはの広場・かんさつガイド⑨

カエルのなかま

くずはの広場には、池や川にすんでいて卵を産み、おたまじゃくしが見られるカエル4種と、たまにやってきて姿や鳴き声が記録されるカエル2種がいます。また、カエルと同じ両生類のアカハライモリもいて、全部で7種類のカエルのなかまが見られます



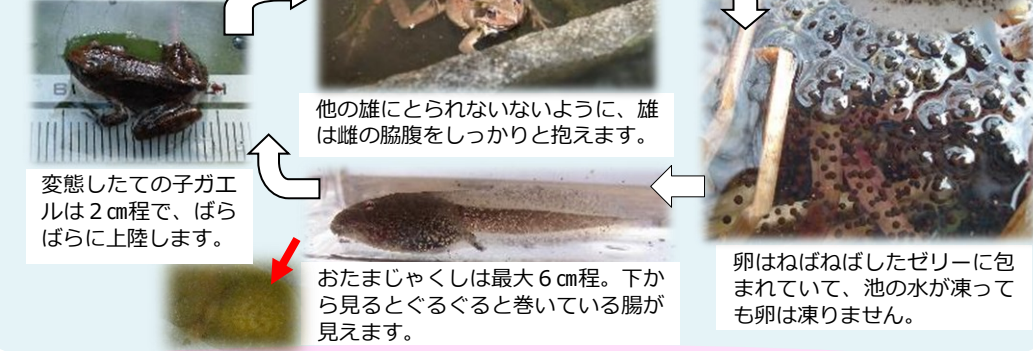
1 ヤマアカガエル アカガエル科

葛葉緑地にすんでいるカエルの中で一番たくさんいるカエルです。普段は湿った草地や林にすんでいます。11月頃から集まってきて池や川の周りで冬眠し、1~3月の雨の降る夜に(時には昼間でも)たくさんのカエルが繁殖のために水場に集まります。雄はキャラララ…と鳴き雌を呼びます。卵は丸いイクラのような形で1匹の雌が1000~1900個を塊にして産みます。でんじそう池には毎年70個前後の卵塊が産み付けられるので、春には池がおたまじゃくしでいっぱいになります。冬に産卵したカエルはまた休眠(春眠)して暖くなるのを待ちます。

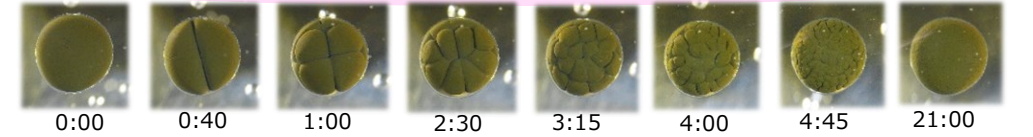


1~3月頃

5~6月頃



生まれたての卵を虫メガネで見よう！「卵の発生のおよそ」数字は観察時の経過時間

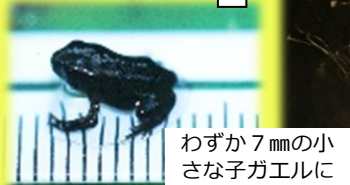


2 アズマヒキガエル



葛葉緑地にすんでいるカエルの中で一番大きくなるカエルです。移動は他のカエルと違い、四つ足でのそのそと歩くことが多いです。普段は林にすんでいます。3月の雨の降る夜たくさんのカエルが繁殖のためにでんじそう池にやってきました。そして、少ない雌をめぐって雄が戦う「蛙合戦(かわずがっせん)」を繰り広げます。普段は鳴きませんが、繁殖のときだけ雄はコッココッと鳴きます。卵塊はひも状のゼリーに包まれていて、背中はいぼから出す液は毒成分が含まれているので、さわったら必ず手を洗いましょう。

5月頃



わずか7mmの小さな子ガエルに変態し雨の降る夜一斉に上陸します。雄は2年で大人のカエルになります。

3月中旬頃



水草にからみつけるようにひも状の卵塊を2本セットで産みます。長さを計ったら1本が6mで3000個もの卵が入っていました。

おたまじゃくしは真っ黒で小さく、最大でも3cmほどにしかなりません。

3 ツチガエル



池や水辺から離れずに生活するカエルです。5~8月の夜、でんじそう池でギューコッココッと低い声で鳴いているのが聞かれます。卵は水草にからめるように数十個ずつ産み、おたまじゃくしの多くはそのまま冬を越し8cmほどまで成長して翌年子ガエルに変態します。

5~9月頃

おたまじゃくしの尾のひれに黒や銀白色の斑点があるのが特徴です。生まれた時期によってその年に変態するものと翌年変態するものがあります。

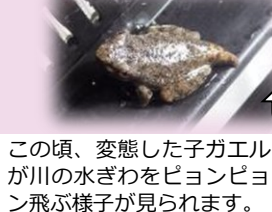


4 カジカガエル



流れのある葛葉川でおたまじゃくしが見られるのは、このカジカガエルだけです。3~8月頃、雄は葛葉川の水面に突き出た石の上に乗って、フィフィフィ...と涼し気に鳴いて雌を呼びます。卵は大きな石の下に100個程度の塊で産みつけられます。おたまじゃくしは黒く石にくっついて流されないように口が吸盤状になっているのが特徴で、流れが緩やかな水ぎわの石の間を探すと見つかります。冬には水辺を離れて林の中などで冬眠するようで、くずはの家の近くでも見かけることがあります。

7~9月頃



雌は雄よりもかなり大きい。



5 ニホンアマガエル



平地の水田ではよく見られるカエルですが、葛葉緑地では鳴き声がたまに聞かれることがあるくらいで、おたまじゃくしを確認したことはまだありません。雨が降り出しそうな時、木の上でグエグエグエグエッと鳴き出します。緑色のカエルですが体の色を背景の色に合わせて変えることができるので、迷彩柄の灰色や茶色のカエルに出会ってびっくりします。

おたまじゃくしは目が離れていて、尾のひれが頭の前の方からついているのが特徴です。

撮影: 鶴巻

6 シュレーゲルアオガエル



谷戸田などでよく見られるカエルで、葛葉緑地ではあまり見られませんが、過去にでんじそう池に卵を産んだ記録があります。卵はメレンゲのような泡の中に産みます。田んぼでは畦に穴を掘ってその中に産みますが、掘れずに石の上に産んでしまったようです。雄は4~6月頃、コロコロ...とかわいい声で鳴き雌を呼びます。

撮影: 東田原

おたまじゃくしは最大5cm程。尾が長く先が細くとがっています。

